

## 平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	鳥取駅前・賑わいのまちづくり実証事業		
(2) 実施団体名	鳥取市中心市街地活性化協議会	(3) 対象地域	鳥取県鳥取市中心市街地(鳥取駅周辺地域)
(4) 代表団体名	財団法人鳥取開発公社	(5) 推薦団体名	鳥取市

(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	道路空間及び回廊型大型空き店舗を利活用した賑わい創出に向けた実証事業	
	実施主体	新鳥取駅前地区商店街振興組合、鳥取大丸株式会社	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<p>①実施内容:道路空間や回廊型空き店舗の活用による、オープンカフェやバザール、生産地域の産品販売市、イベント等の実施</p> <p>②実施時期:平成20年10月4日～10月13日(10日間)</p> <p>③実施場所:県道西町鳥取停車場線及び日ノ丸印刷ビル</p> <p>④取組の目的:道路空間等を活用した街なかの賑わいと回遊性の創出に関する恒常的な取組のための検証を行う。</p>	<p>①実施内容:(道路空間活用)オープンカフェ、バザール、生産地域の産品販売市、イベント、道路芝生化の実施(回廊型空き店舗)手づくり作品展示販売、ロシア総領事館等と連携した子どもの絵画の展示「街かど美術館」実施</p> <p>②実施時期:平成20年10月4日～10月13日(10日間)</p> <p>③実施場所:県道西町鳥取停車場線及び日ノ丸印刷ビル</p> <p>④取組の結果:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路空間等を活用する団体を公募したところ、生産地域や郊外の住民、商業者、県外からの文化団体等、70を超える団体等が参画することとなり、期間中の来訪者も10万人を超えるなど、賑わいの創出が図れた。</li> <li>・事前のアンケートを参考として実施した「道路の芝生化」は、全国規模で報道され、話題性も非常に高く、来訪者も約8割が好感を持った。芝生化の取り組みは地元メディアのみならず全国メディアでも取り上げられ街なかがクローズアップされることにより、街なかへの来訪者を増加させる大きな動機付けとなった。</li> <li>・街の顔に相応しい「憩いと賑わいの空間の創出」の実現が出来たことで、街づくりの方向性を市民に示すことができたほか、この成功体験が地元商店街復興の大きな自信となっている。</li> </ul>
<b>取組②</b>	地域資源を活かした観光客の街なか誘致に向けた実証事業		
実施主体	鳥取市		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<p>①実施内容:鳥取砂丘と街なかを結ぶシャトルバスの運行 鳥取砂丘での街なか情報発信 街なか砂像スタンプラリー</p> <p>②実施時期:10月4日～10月13日(シャトルバス) 10月1日～10月31日(砂像展示)</p> <p>③実施場所:鳥取砂丘及び県道西町鳥取停車場線</p> <p>④取組の目的:地域資源である鳥取砂丘を活かし、街なかへの観光客の誘致及び砂像スタンプラリーによる街なかの回遊性を高める。</p>	<p>①実施内容:</p> <p>鳥取砂丘と街なか(実証会場)間にシャトルバスを運行(6往復/日) 鳥取砂丘周辺の駐車場や店舗等での街なかの情報発信(パンフ等) 街なか砂像公開制作及び街なか砂像スタンプラリー(4ヶ所)</p> <p>②実施時期:10月4日～5日、11日～13日(シャトルバス) 9月26日～11月3日(砂像制作展示)</p> <p>③実施場所:鳥取砂丘及び県道西町鳥取停車場線</p> <p>④取組の結果:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初はバス利用が少なかったが、広報活動を強化した結果、約7人/便という既存観光ループバスと同等の利用があり、アンケート調査からも、特に観光客のニーズの高さ(8割以上)が確認できた。</li> <li>・砂像スタンプラリーは、約2,400名の来訪者が参加し、周辺店主が参加者に割引サービスをするといった協力など、地域が一体となったほか、消費活動の増進と街なかの回遊性向上が図られ、商店街の活性化に寄与することが分かった。</li> </ul>	

<p><b>取組③</b></p> <p>実施主体</p> <p>実施内容、実施結果</p>	<p>道路空間の再配分による安心・安全で移動しやすい街に向けた実証事業</p> <p>鳥取県、公安委員会、鳥取開発公社</p> <p>当初提案により予定していた計画</p> <p>①実施内容: 太平線のトランジットモール化 臨時横断歩道の設置 街なかパーク&amp;サイクルライド</p> <p>②実施時期: 10月4日～10月13日 (パーク&amp;ライドは31日までの平日22日間)</p> <p>③実施場所: 県道西町鳥取停車場線・鳥取福部線</p> <p>④取組の目的: 道路空間への賑わい空間の創出や駅と商店街街区間の歩行者・自転車のアクセス向上を図るとともに、周辺交通環境への影響を調査する。また、自動車通勤者が車から降り、街なかに人の流れを生む環境整備の実証を行う。</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>①実施内容: 太平線のセミトランジットモール化(約150m) 駅と商店街とを結ぶ臨時横断歩道の設置 街なかパーク&amp;サイクルライド(バスライド)(5ヶ所)</p> <p>②実施時期: 10月4日～10月13日 (パーク&amp;サイクルライド(バスライド)は期間中の平日5日間。</p> <p>③実施場所: 県道西町鳥取停車場線・鳥取福部線</p> <p>④取組みの結果: ・周辺地権者との調整によって、セミトランジットモールに変更となったが、十分な意見交換によって、人が集まりやすい良質な空間を設置することができたことは、新たな人の流れを生むきっかけとなり、賑わいの創出が可能であることが周辺の店主を中心に実感することができた。 ・駅前に設置した臨時横断歩道は、駅から商業街区へのアクセスを向上させ、人の流れを変えることにより商業街区の活性化に寄与することが実証できた。 ・アンケート調査から臨時横断歩道の必要性は通行者で約8割と高く、運転手側も約9割が許容できるという結果であり、恒常的な実施に向けた可能性が確認できた。 ・パーク&amp;ライドは50名の参加があり、商店街と連携した参加者割引等を実施した。その結果、期間中において、実証会場周辺で30万円を超える消費(全参加者合計)が確認できた。人の流れを創出することで消費活動を増進させることが確認できた。</p>								
<p>(7)実施体制</p>	<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> <p>・他分野からの意見や実施主体の連携を強化するため、中心市街地活性化協議会以外の有識者・地域住民・若者(大学生)などを加えた「鳥取駅前・賑わいのまちづくり実証事業実行委員会」を立ち上げ、地域が一体となって事業の調整を図った。 この実行委員会の下、「賑わい創出部会」を設置し、当協議会が中心となって商業者、若者等の事業参加者をまとめた。 一方、鳥取市が事務局となって「交通環境整備部会」を設置。国土交通省鳥取河川国道事務所や県、県警等が連携・調整し、自動車交通への配慮や安全・安心な通行空間確保に取り組んだ。 ・鳥取大丸株式会社、新鳥取駅前地区商店街振興組合(主担当: 取組①) ・鳥取市(主担当: 取組②) ・鳥取県、鳥取県公安委員会、(財)鳥取開発公社(主担当: 取組③) ・鳥取市中心市街地活性化協議会(全体調整、実行委員会事務局)</p>	<p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>・事業全体を通して、鳥取市中心市街地活性化協議会が主となり賑わい創出、鳥取市市街地整備室が交通環境整備に関する各関係機関との調整を行いつつ連携を図ることによって、ほぼ計画通りの事業ができた。 ・取組①では、道路空間のみならず鳥取大丸が所有地を出店空間として開放し、自らもオープンカフェ等を実施。隣接した地区の店主が中心となって、民藝美術館の無料開放などの「文化村商店會秋まつり」を実施。地域をあげて事業充実に取り組みることにより周辺にも賑わいの波及効果を及ぼすことができた。 ・取組②では、砂丘での街なか情報発信を周辺の観光施設・店舗の協力で実施。また、期間後半においては、広報活動の強化として、サンドイッチマンによる砂丘での観光客の呼び込みを行い、期間前半と比較し、シャトルバス利用者が3倍以上増加した。 ・取組③では、歩行者の安全対策として、会場内に常設の歩行者用信号機を新設するなど関係機関の協力が得られた。また、パーク&amp;ライドに必要な駐車場を周辺駐車場管理者から無償貸与や、周辺店主が参加者に割引券を配布するなど、当初予想しなかった方面からの協力を得ることができ、店主等の街なか再生に向けた意欲が垣間見られた。</p>								
<p>(8)取組により得られた成果</p>	<p>○成果1→ 歩行者通行量の増加(自転車を含む。鳥取大丸・サンロード内・錦通り周辺:7箇所)及び来街者の満足度</p> <table border="1" data-bbox="315 1070 2114 1126"> <tr> <td>H19</td> <td>H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td>9,400人/日</td> <td>10,340人/日(10%増)、来街者アンケートで80%以上が事業について恒常的な取組みを望む</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果) ・歩行者自転車通行量は実証事業期間外と実証事業期間中のそれぞれ平日休日の8:00～20:00の通行量を周辺7地点で測定した。その結果、実証事業期間外の歩行者自転車通行量は10,100人/日。実証期間中は17,200人/日となり、目標値の通行量10%増を大きく上回る70%増となった。 ・また、来街者アンケートの結果より、このような取組みを恒常的に望む声が平日80%、休日83%あり、目標の80%を上回った。</p> <p>○成果2→ 観光バス(ループ麒麟獅子号)の利用者数(鳥取砂丘から街なかへの観光客数)の増加</p> <table border="1" data-bbox="315 1262 2114 1318"> <tr> <td>H19</td> <td>H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td>125人/日</td> <td>150人/日</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果) ・実証事業期間中のループ麒麟獅子号利用者数は、132人/日でH19の125人/日を上回り、砂丘エクスプレスバス(シャトルバス)の41人/日と合わせると173人/日となり、目標値の150人/日を上回る結果となった。 ・砂丘エクスプレスバス利用者に行ったアンケート結果から、限られた時間の中で観光する県外観光客を中心に直行バスに対する一定のニーズがあることが分かった。よって、JR利用客や街なか周辺のホテル利用客に周知を図ることでより利用者数を増やすことができると考えられる。</p>		H19	H20(当初予定していた目標)	9,400人/日	10,340人/日(10%増)、来街者アンケートで80%以上が事業について恒常的な取組みを望む	H19	H20(当初予定していた目標)	125人/日	150人/日
H19	H20(当初予定していた目標)									
9,400人/日	10,340人/日(10%増)、来街者アンケートで80%以上が事業について恒常的な取組みを望む									
H19	H20(当初予定していた目標)									
125人/日	150人/日									

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>・「臨時横断歩道設置」並びに「太平線のセミランジットモール」は、それぞれ「鳥取駅と商業街区へのアクセスを改善」、「賑わいの創出」といった効果が確認でき、周辺交通への悪影響もほとんど見られなかったことから、本格実施に向けた関係機関等との調整を進めていきたい。ただし、セミランジットモールについては、中心市街地のメインストリートである若桜街道・智頭街道等を含めた街なか交通全体として検討する必要があり、一步通行の向きや車線数など、今後も継続した実証が必要と考えられる。</p> <p>・砂丘シャトルバスは、観光客を中心にニーズがあることから、平成21年度に開催する世界砂像フェスティバルなど今後砂丘で行われるイベントの際には、既存観光ループバス等との連携調整して実施するよう便数や運行時間の検討する。</p> <p>・パーク&amp;ライドや砂像スタンプラリー参加者への割引など、協力店等の協力を得ることができ、消費活動が増進されたが、この効果をより広い範囲に波及させる取組みが必要がある。そのためにも事業範囲の拡大や商店街による共通サービスなど、より地元と連携して、恒常的な取組を視野に入れ実証事業を継続する必要がある。</p> <p>・関係機関等とも連携して事業の広報を行ったが、広報に至らない点も見られた。今回、非常に大きな注目を浴びたことを活かし、今後より多くの団体・住民等の参画を得て、道路空間の新たな活用策について、実証していく必要があると考えられる。</p>	
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 太平線トランジットモール等の本格導入に向けた検討・調整(H21年度)</li> <li>2. エリアを拡大した道路空間活用等の実証事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事情の変化を踏まえた道路空間の再配分</li> <li>・エリアを拡大した中心市街地全域に波及する、賑わい創出及び回遊性向上の検討</li> </ul> </li> <li>3. 来訪者の回遊性向上に関する実証事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界砂像フェスティバル等と連動した街なか砂像ラリー</li> <li>・街なかパーク&amp;ライド実証事業(当初提案なし)</li> </ul> </li> </ol>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当初提案1、2の取組みを合わせた、エリアを拡大した道路空間活用等の実証事業(H21年度～) <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体：鳥取県、鳥取市、新鳥取駅前地区商店街振興組合、鳥取本通商店街振興組合、若桜街道商店街振興組合、智頭街道商店街振興組合ほか</li> <li>・平成20年度事業で得られた検証結果やノウハウをもとに中心市街地の2軸(若桜街道、智頭街道)で交通体系の見直し、道路空間の再配分により生み出したスペースを活用した中心市街地における賑わいおよび回遊性の向上の実証</li> <li>[活用を希望する制度：上記に地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額2,500万円)]</li> <li>※道路の再配分のうち自転車、歩行者分離については「社会実験」(国交省)の活用を検討(想定金額1,500万円)</li> <li>※本格実施に際しての道路空間等の整備については街路事業またはまちづくり交付金の活用を検討</li> </ul> </li> <li>3. 来訪者の回遊性向上に関する実証事業(H21,22年度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体：鳥取市、鳥取市観光協会</li> <li>・唯一無二の地域資源を活かした取り組みとして、平成20年度事業で得られた検証結果や世界砂像フェスティバルで養成された市民ボランティア等との協力を通じた街なか砂像コンテスト、砂像スタンプラリーを実施し、街なか回遊・観光として定着を図る。</li> <li>・街なか駐車場協議会(仮称)を設置し、車を降りやすい交通環境の整備を目指すとともに、恒常的なパーク&amp;ライド(サイクルライド)事業の展開を目指した実証を行う。</li> <li>[活用を希望する制度：上記に地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)]</li> </ul> </li> </ol>

### ◆主な実施取組の内容◆

#### 道路空間及び回廊型大型空き店舗を 利活用した賑わい創出に向けた実証事業

##### 【主な内容】

- ・道路空間でのオープンカフェやバザール
- ・一般パフォーマーによるパフォーマンス
- ・大型空き店舗を「街かど美術館」として活用



#### 地域資源を活かした観光客の 街なか誘致に向けた実証事業

##### 【主な内容】

- ・街なか⇄砂丘エクスプレスバスの運行
- ・街なか砂像の公開制作とスタンプラリー
- ・鳥取砂丘での街なか情報発信



#### 道路空間の再配分による安心・安全で 移動しやすい街に向けた実証事業

##### 【主な内容】

- ・一方通行化による道路空間の再配分
- ・アクセス向上のための臨時横断歩道設置
- ・賑わいを生み出す芝生空間の創出



### ◆取組実施による成果・今後の展開◆

#### 【成果】

- ・歩行者・自転車通行量⇒17,200人／日  
(目標10,340人／日)
- ※期間中、**10万人を超える**来街者
- ・アンケートで、恒常的な取組を望む意見⇒82%  
(目標80%)

#### 【今後の展開】

1. 駅前横断歩道は、本格導入に向けた検討・調整へ →
2. エリアを拡大した道路空間活用等の実証事業  
(より広い波及効果を検証)
3. 街なか砂像スタンプラリー(世界砂像フェスティバル等  
と連携)やパーク&サイクルライドにより、地域資源の  
活用による来訪者の回遊性向上を検証

